

河川管理者からの説明メニューに関する議論（第 5 回委員会）

意見	回答等	対応等
<p>・先に原案を提示していただいて、その中であるべき姿を論ずる方が、より具体的になるのではという気がするが。</p>	<p>・河川がもたらしている豊かさをとらえ直してみるのが、流域委員会の基本的なスタンスなのではと思う。その中で、河川管理として法律に基づいてやるべき仕事はどこにあるのかという議論をしていかないと、治水、利水という今までの流れの中で、やれるところだけで原案を提案していただくことになる。</p> <p>・今のところ、具体的な情報がいろいろと出てきていないので、議論のキーが見えてきていない気がする。</p> <p>・ワークショップみたいなことをして、「何が起きているのか。」「どんなことが関係するのか。」「ええっ、そんなことは知らなかった」ということを一度やってみた方がいいように思う。</p> <p>・望ましいあるべき姿はやはり議論しておくべきだろうと思う。</p> <p>・一番恐れることは、原案が出ると、原案にしか視点が集中しなくなって、あるべきだ論が全く欠けてしまう恐れがある。</p> <p>・河川管理者の方からの現状説明メニューと委員の考え方（アンケート結果）にはギャップがあるかもしれない。（人の生活の視点など）</p> <p>・従来から 100%止めようとしてきた災害に対して、もし災害が起きたら被害をいかに少なくするかという発想が新しい河川整備計画の中で出てくるのか出てこなのかということも、新しい視点から考えるなら、あるべきだ論の中にそれを取り入れていただきたい。</p> <p>・原案が先に出て、それを議論してしまうと、利害も直接ぶつかるし、地域代表として我々が出てきているわけではないので、いろんな意味で議論が小さくなってしまいそうな気がする。</p> <p>・流域全体の円山川のあるべき姿、望ましい円山川の姿について、この委員会として議論をすることは、それだけで一つの大きな課題だと思う。それをした上で直轄区間の整備計画について意見を言うという 2 つ目の課題があるというふうに考えれば、この委員会そのもので流域全体のあるべき姿をきっちり議論するということは、非常に大きなことだと思う。</p>	<p>・現状の段階で原案を提示すると議論がそこに集約し、円山川の本来あるべき姿が見えにくくなる恐れがある。原案については、ある程度現状認識を進めてから、提示することとする。</p>
<p>・説明事項の中に、河川を管理していく上で関係している法律を全部挙げて欲しい。</p> <p>・様々な意味で思いもかけないようなことを河川管理者として作業をされているはずで、そういうものが全部見えてくると、川がいろんな使われ方をしているのが見えてくると思う。</p>	<p>・非常に大きな自然工物の河川に関わって、人間社会の枠組み、法律という格好で示したときに、どれぐらいになるか。</p> <p>・『河川六法』という厚い本があるが、あれでも川を全部仕切れるかどうか。その辺を整理して示していただけると、河川管理者としての位置づけがもう少しはっきりしてくる。</p>	<p>・河川管理者に要請。 「河川を管理して行く上で関係している法律のまとめ」</p>
<p>・現在の河川管理のもとになっている整備計画、できれば直轄地域だけではなく、県の管理している部分の計画について、我々の理解できる範囲でまとめて提示してほしい。</p> <p>・実際の議論としては、川を狭くとらえないで、広く議論していけばよいが、最終的に整備計画に意見を集約していくということになると、一体その整備計画というのはどんなもので、それが現実の工事とどう結びついているのかということ、我々としてはまず知っておきたい。</p>	<p>・これまではこういう考え方で基本的な計画で整備を進めてきた。完全な結果というわけではなく、途中経過みたいなのが今の川の姿だということを示してもらえると、現状理解が非常に深まるのではないかとということで、そういったものはできる限り出していただきたいと思う。</p> <p>・例：伊勢湾台風に対する対応。平成 2 年の出水に対する対応。</p> <p>・現状の川になるまでにどのような考え方で計画され、どのように変わってきたのか。またそれが今考えている整備計画にどう繋がるのかという形でまとめ直して欲しい。</p>	<p>・河川管理者に要請。 「従来の計画について」</p>

意見	回答等	対応等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川がどのように変化させられてきたのか。あるいは自然の流れの中でどのようなであったのか。この辺のデータを出していただきたい。</li> <li>・説明項目のことに、川そのものに関する知識がもう少し欲しい。</li> <li>・例えば、川そのものが土や土砂をどう運んでいるのか、どういう原理になっているのか、あるいは山と保水力、あるいは山の管理と土砂とか保水力との関係が基本的にはどうなっているのかなど、そのような知識も整理していただくとありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状説明の中で、個別的な対応ではなくて、全体の流れの中で説明してもらおう。</li> <li>・「どういう格好で川がつくられてきたかということ」、「何らかの自然的なインパクトを受けたときに、川がどうという自然的なレスポンスをしたか」などが的確に示していただくと非常に理解が深まる。(藤田委員長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川管理者に要請。</li> <li>・これまでに出された河川管理者に対する質問に関しては、可能な限り、現状説明の流れの中に反映していただく。</li> <li>・反映できないものに関しては、今後個別に対応していただく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川管理者にすべての説明を要求するのは、大変なことだと思うので、各委員の専門的な説明も川全体の文化的な側面も含めて、少しまとめた形で説明していただけると良いと思う(例:川の文化など)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい姿、あるべきものについては、理念的・理想的な問題となってくるが、今後、議論する必要がある。</li> <li>・第8回、第9回委員会、あるいはワークショップ・シンポジウムなどで委員の方々に川にまつわるいろんな話題を出し合って、プレゼンテーションできる場を設けたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員からの現状説明については、河川管理者からの現状説明終了後、この第5回委員会の意見を含めて、どういうものが必要なのかについて議論・抽出する。その後の進め方(どのような形態で、誰がするなど)については、要検討。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川管理者の現状説明は、何回ぐらい予定しているのか。</li> <li>・それから望ましい円山川の姿、あるべき姿などの議論は何回ぐらいの予定にされているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回委員会及び第8回委員会の2回にわたってを考えている。</li> <li>・説明項目の追加については、委員会での委員の要望等を集約して、それに沿った形で項目を追加・整理していく。</li> <li>・期間的には委員会2~3回ぐらいの中でご説明させていただきたい。</li> <li>・整備計画の案の提出や現状説明項目の追加などの要望が出ているが、必要あれば、前向きに考えていきたい。</li> <li>・整備計画関係も含めているいろんな計画も現状説明の中に入れ込んでいるつもりではいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川管理者の現状説明に関しては、今のところ2回に分けて進める。必要あれば追加。 第6回(11月)、第8回(1月)</li> </ul>